

## ヒグマに関する住民の意識調査アンケートについて

### 1. はじめに

平成 13 年にヒグマの被害や対策に関する経験や意識についてアンケートが実施された。当時のアンケート結果では、斜里市街へのヒグマの出没について、「出没しない」とする回答が 90%以上となっていた。しかし、アンケート実施から 10 年が経過し、斜里市街でヒグマが出没する様子が大きく報道されるなど、近年、市街地でのヒグマの出没が相次いで発生している。一方、ウトロでは、平成 17 年及び平成 18 年に既存の防鹿柵を活用してヒグマ対策のための電気柵を設けたことで、集落へのヒグマの出没が激減した。

アンケートが実施された 10 年前とは、ヒグマと人間との軋轢が変化しているため、地域住民のヒグマに対する意識についても 10 年間で大きく変化していることが予想される。平成 17 年に知床が世界自然遺産に登録されて以降、住民を対象にしたヒグマに関する意識アンケートは実施されていなかった。そこで、本年度にアンケートの実施を検討する。

### 2. ヒグマに関する住民の意識調査アンケートの目的

ヒグマに関する住民の意識調査アンケートは、知床半島ヒグマ保護管理方針「7. 調査研究・モニタリング」に定める「⑤利用者や地域住民への普及啓発の実施状況と効果の把握」という目的に合致する調査項目の「住民や利用者の意識調査」として実施する。

アンケートの目的は、斜里町、羅臼町の住民を対象にヒグマに対する意識やヒグマ対策に関する意向について、基礎的な資料を得ることである。得られたデータは、住民との合意形成を効果的に進めたり、住民が受け入れやすいヒグマ保護管理方針への修正に活用したり、普及啓発を検討する際などに利用される。本調査は、知床半島ヒグマ保護管理方針策定後の住民意識の変化をモニタリングする上でも重要な調査である。

### 3. アンケートの詳細について

アンケート担当委員を庄子委員とし、アンケート票の作成と解析にあたっては、庄子委員の協力を得るものとする。庄子委員は、知床半島ヒグマ保護管理方針の対象地域である標津町におけるヒグマに関する住民意識アンケートに係わられているため、事務局として適任と判断する。